

～エンタテインメントプログラム 第2部～

第61回 秋期臨床細胞学会  
東北大学 Chamber Orchestra による演奏会

2022年11月5日 (土) 19:15～  
仙台サンプラザホール (第1会場)

プログラム

＜弦楽アンサンブル＞ 指揮：岡 輝明  
モーツァルト アイネクライネナハトムジーク 第1楽章  
シベリウス アンダンテ・フェスティーヴォ

＜トランペット4重奏＞  
ザムエル・シャイト カンツオン コルネット

＜米澤 傑 弦楽＋トランペットと共演＞ 指揮：岡 輝明  
プッチーニ 歌劇「トゥーランドット」より  
「誰も寝てはならぬ」

＜米澤 傑 独唱ステージ (ピアノ伴奏)＞  
E. デクルティス 忘れな草  
S. カルディオ カタリ・カタリ  
E. ディカプア オーソレミオ  
A. ララ グラナダ



## プロフィール

### 米澤 傑 Suguru YONEZAWA (テノール Tenor)

鹿児島大学医学部卒業。鹿児島大学名誉教授（医学部・病理学）。医学博士。  
キラメキテラスヘルスケアホスピタル トータルウェルネスセンター・センター長。  
鹿児島市医師会病院病理部・顧問。

松本美和子氏に師事。日本クラシック音楽コンクール声楽部門第1位・グランプリ。太陽コンコロソ・カンツォーネ・イタリアーナ優勝、「鹿児島県芸術文化奨励賞」。「蝶々夫人」や「カルメン」の主役、ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」、ヴェルディ「レクイエム」、ロッシーニ「スタバト・マーテル」、ハイドン「スタバト・マーテル」、メンデルスゾーン「最初のワルプルギスの夜」等のソリストとして大好評を博す。ルーマニアで「最高のテノール」、東京で「マ

リオ・デル・モナコの声を持つ医学部教授」と話題になる。世界的名テノールのN. マルティヌッチやG. ジャコモニーとのジョイントリサイタル（東京芸術劇場）では、ニューヨークの音楽記者が“米澤の歌った「清きアイダ」の最後の高音は、メトロポリタン歌劇場でも聴いたことのない素晴らしいものであった”と世界中に発信。イタリアと日本でのオペラ「トゥーランドット」のカラフ王子役、皇后陛下（現・上皇后）のご臨席を賜り、東京サントリーホールで開催されたモーツァルト「レクイエム」のソリストを務め大絶賛を博した。

「第九」アジア初演記念「よみがえる第九」のソリスト、松本美和子氏との「オテロ」二重唱、「かぎん くつろぎトーク&コンサート（TVキャスター・草野仁様とともに）」、徳島と大阪での「米澤 傑 テノール・リサイタル」で高い評価を得る。

NHKの「第九をうたおう」（井上道義 指揮）、FM名曲リサイタル、芸術劇場「二つの顔をもつ音楽家」、ならびに、ラジオ深夜便に出演。湘南クラシックサロンに出演。

日本病理学会で最も名誉ある「日本病理学賞」受賞。「高松宮妃癌研究基金学術賞」受賞。

各種がんマーカー等の論文の著者世界ランキング第6位（日本人第1位）にランクイン。

CD「誰も寝てはならぬ/米澤 傑 テノール・オペラアリア集（G. ステューファノ 指揮・ソフィア国立歌劇場管弦楽団）」は、ヒットチャートで度々第1位（検索：楽天市場 米澤傑）。



### 岡 輝明 Teruaki OKA (指揮)

公益財団法人結核予防会複十字病院病理診断部部長。

1979年（昭和54年）岩手医科大学卒業。東京大学大学院医学系研究科人体病理学教室講師を経て、1999年（平成11年）公立学校共済組合関東中央病院病理科部長。2019年（令和元年）から現職。この間、呼吸器病理学を聖路加国際病院山中晃博士に師事。2006年から、環境省中央環境審議会石綿健康被害判定小委員会委員として悪性中皮腫患者の認定に携わる。文京区さしがや保育園アスベスト健康対策等専門委員会委員長、東京都臨床細胞学会会長、中皮腫細胞診研究会代表幹事。2020年環境大臣表彰。

成蹊高等学校でコーラス部に所属。顧問の高井寿雄氏（聖ニコライ合唱団指揮者）に指揮を学ぶ。1973年、岩手医科大学管弦楽団に指揮者として入団し、2013年まで音楽監督兼首席指揮者。岩手医科大学在学中、前田幸一郎氏（宗教音楽）に師事。

